

研修コース名	(和文) 稲作技術向上(普及員) (A)
	(英文) Improvement of Rice Cultivation Techniques (for Extension Officers)
研修期間	2024年3月10日～2024年11月15日(来日) 遠隔 2024年2月6日～2024年3月5日 在外補完 2024年11月16日～30日
使用言語	(A) 英語
参加国 (Aコース)	フィリピン、エチオピア、ガンビア、リベリア、マラウイ、ウガンダから7名参加
参加国 (Bコース)	カメルーン、ギニア、マダガスカルから3名参加 *同内容のBコース(仏語圏)も、Aコース研修員と合わせて研修に参画。
案件目標	研修員の稲作栽培技術、普及に関する能力・知識が向上し、対象農村地域のニーズに即したアクションプランが作成される。
研修概要	稲作の栽培技術の普及に携わっている行政・民間組織の職員を主な対象とし、水稲を中心とした基礎的な稲作栽培技術、普及手法を学び、生産性や品質向上のための現地の課題を的確に抽出し、日本の研修効果を現地の文脈に合わせて普及・展開することのできる人材を育成する。カリキュラムの約50%がJICA筑波の圃場や施設を使う実習にあてられ、稲を実際に栽培しながら関連知識や技術を習得することができる実践的な研修である。
SDGs等への貢献	◎SDGsゴール2 飢餓・食料安全保障・栄養・農業のうちでも特に「飢餓をなくす」や「生産量を増やす」といった目標に貢献します。 ◎「アフリカ稲作振興のための共同体(“Coalition for African Rice Development: CARD”)」で掲げた目標 2018年までにアフリカのコメ生産量倍増(1400万トン → 2800万トン)の達成にも貢献し、更に2019-2030で倍増(2800万トン → 5600万トン)する目標に向けて取り組んでいきます。



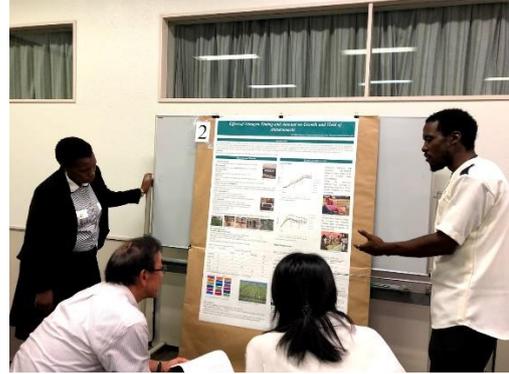
生育状況、葉色変化の観察



土壌分析実習



稲の幼穂観察



普及資料・実験結果ポスター発表